

これからの季節、ゲリラ豪雨や台風に注意!

近年、日本の夏って変な気がしませんか? もう本当に逃げ出したいくなるような暑い日が年々多くなってきています。突然の夕立。カラッと晴れていた空が、一転して土砂降りになるのはもう珍しくはありません。

普段、降雨時の「雨の日散歩」

雨が降った時、降雨量によって周囲の状況がどう変化するか等平常時に確認しておく、豪雨の際に水の濁り方、小石や土砂の流れ具合などで土砂災害や鉄砲水に発展するかの異常を見分けることができ、早期自主避難の判断目安になります。平常時と異常時の違いを普段から確認しておくとい良いでしょう。「私は雨の日散歩をおすすめします」

自前のハザードマップづくり

行政などが作成する洪水ハザードマップは、洪水が発生した場合被害を受ける可能性がある地域を示すものです。しかし、いざというとき必要なのは避難経路の危険箇所(マンホール、側溝、小河川)の把握です。濁流で冠水した場合、そうした危険箇所が見えなくなります。避難途中にふたの外れたマンホールや側溝に落ちて犠牲となるケースが圧倒的に多いのです。自宅からの避難経路にある危険箇所などを確認しておき、自前のハザードマップに位置を記入しておくことも大切です。

家の外回り防災片付け「防災大掃除」

排水溝の清掃や周囲の片付けなど「防災大掃除」を季節の変わり目など、定期的に行う必要があります。強風などで飛ばされる可能性があるベランダのプランターなどはしっかり固定したり片付けたりして、物干し竿は日頃からしっかりと結びつけ強風で飛ばない対策をしましょう。

マンション室内への防水対策

マンション特有の現象で、台風時に窓の下のレール部分などから水が吹き込む場合があります。古いタオルなど捨てずにおいておき、台風時には室内の窓の下側(アルミサッシレール部分)に湿らせたタオルを置きましょう。水の吹き込み浸入を押さえることができます。

マンションの高層階では、エアコンのドレンパイプから風が逆流し、夏などは除湿した水が逆に室内へと吹き込みます。図のように室外のドレンパイプに「ハサミで切り込みを入れたビニール袋」を輪ゴムで取り付け、コップ一杯の水をそのビニール袋にかけておくだけで風の逆流は止まり、ドレンの水は適切に排出します。また、ドレンパイプ用の逆止弁なども販売されています。



もしものときの注意

気象情報、防災情報に注意します。

車で避難してはいけません。時間あたり20mm以上の降水量でワイパーは効かず、ブレーキが効かなくなる可能性があります。車は思ったよりも水の浸入に弱く、マフラーの高さ(約20cm)までの水位でエンジンは停止します。もしも車に乗っているときに水没してエンジン停止しそうになったら、迷うことなく車外に脱出することを考えましょう。ドア付近まで水位がくれば水圧でドアは開けられなくなるばかりか、エンジン停止すれば窓も開けられません。

浸水が進行すると歩行が困難になります。成人男性で70cm以上、成人女性で60cm以上になると歩行困難となります。そうなったら無理をせず救助を待ちます。

避難するときは隣近所に声を掛け合って避難してください。とくに要援護者の支援は隣人の役目です。

避難者同士ロープで結んで避難します。

荷物はできるだけ減らし、最小限にして両手を開けて避難します。

冠水箇所には障害物や深みがありますので、長めの棒をもって探りながら進みます。

避難するときはヘルメット、手袋、雨具、長ズボン、長袖シャツで、懐中電灯、ラジオを持って避難します。長靴は水が入ると動けなくなるので、脱げにくい紐靴などで避難します。

火の元、ガスの元栓、電気のブレーカーを閉じ、戸締まりして避難します。

マンションの場合でも、高層階だから安心と思っは いけません。下水道が浸水し満水になると、トイレや台所などの使用ができなくなります。あなたの身勝手な行動が多くの人に迷惑をかけることとなりますので、マンション内の防災情報に注意してください。

情報の入手

テレビやラジオで情報の入手はもちろんのこと、加古川グリーンシティでは、管理組合、自治会、防災会からの身近で大切な情報も入手できるよう日頃から「7CH・ニューメディアシステム」受信の確認をお願いします。受信できない方は管理事務所までお問い合わせください。

危険に近づくな!

河川が増水しているかどうかの確認をしに行ってはいけません。命が惜しいなら、見に行くよりもまずテレビやラジオで情報を入手してください。

「私は大丈夫」と思ったあなたの過信は多くの人に迷惑をかけることとなります。『防災システム研究所ホームページ』より引用させていただきました。



「話そうはりま」HPより河川情報が入手可能